

■コメント

1 インフルエンザ

定点当たり8.21人の報告がありました。減少が続いていますが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等が7件報告されています。引き続き、手洗い、咳エチケット、適度な湿度の保持、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)
第3週 A型:55人、B型: 25人

2 麻しん

今年初めての報告が1件ありました。(次ページ参照)

3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たり2.33人の報告がありました。感染経路は、飛沫感染や接触感染で、2~5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、苺舌などの症状が現れます。手洗い、咳エチケットなどの感染予防対策を心がけましょう。

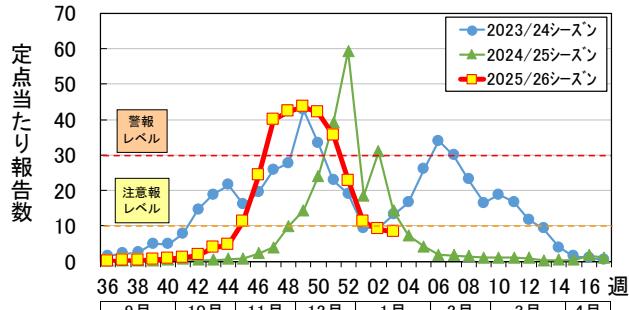
4 腸管出血性大腸菌感染症

5件の報告がありました。感染予防のため、加熱が必要な食品は十分に加熱し、生野菜は十分に洗いましょう。また、調理の前、食事の前、トイレの後などは、せっけんと流水で手を洗いましょう。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平過去(5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平過去(5年間)	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1751	51.50	/	↑	小児科	突発性発しん	5	0.24	0.30	
	インフルエンザ	279	8.21	8.27	↑		ヘルパンギーナ	-	-	0.09	
	新型コロナ(COVID-19)	12	0.35	/			流行性耳下腺炎	-	-	0.03	
小児科	RSウイルス感染症	10	0.48	0.06		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	3	0.14	0.52			流行性角結膜炎	4	0.50	0.63	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	2.33	0.99	↑		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	121	5.76	7.18	↑	基幹	無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	4	0.19	0.15			マイコプラズマ肺炎	12	2.00	0.43	
	手足口病	1	0.05	0.22			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	2	0.10	0.01			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

インフルエンザの流行状況(広島市)



急増減	↑ ↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↑ ↓	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↑ ↓	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	↔	ほとんど増減なし

報告数が少數の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	34
小児科定点数	21
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	3	70歳代、80歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	5	5	20歳代・O157・1人、10歳未満・O血清群不明・3人、30歳代・O血清群不明・1人
5	梅毒	2	2	40歳代、80歳代
5	百日咳	3	4	20歳代・2人、60歳代・1人
5	麻しん	1	1	30歳代

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ (C O V I D-19)	新型コロナウイルス (R S V)	咽頭結膜熱	球菌咽頭炎	A群溶血性咽頭炎 感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突然性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ	クラミジア肺炎	(口タウイルス)	感染性胃腸炎
報告数	広島市	第51週	2,714	1,237	26	13	13	53	74	9	5	8	5	1	—	—	2	—	—	12	—
		第52週	2,661	797	16	19	7	62	84	5	6	2	5	1	—	—	8	—	—	12	—
		第1週	665	243	4	1	—	7	7	2	1	2	1	—	—	—	—	—	—	23	—
		第2週	1,802	303	12	8	6	38	101	11	—	2	5	—	—	—	7	—	—	9	—
		第3週	1,751	279	12	10	3	49	121	4	1	2	5	—	—	—	4	—	—	12	—
定点当たり	広島市	第51週	77.54	35.34	0.74	0.59	0.59	2.41	3.36	0.41	0.23	0.36	0.23	0.05	—	—	0.25	—	—	2.00	—
		第52週	76.03	22.77	0.46	0.86	0.32	2.82	3.82	0.23	0.27	0.09	0.23	0.05	—	—	1.00	—	—	2.00	—
		第1週	30.23	11.05	0.18	0.09	—	0.64	0.64	0.18	0.09	0.18	0.09	—	—	—	—	—	—	3.83	—
		第2週	53.00	8.91	0.35	0.38	0.29	1.81	4.81	0.52	—	0.10	0.24	—	—	—	0.88	—	—	1.50	—
		第3週	51.50	8.21	0.35	0.48	0.14	2.33	5.76	0.19	0.05	0.10	0.24	—	—	—	0.50	—	—	2.00	—
全国		第1週	28.97	10.34	1.13	0.34	0.13	0.82	1.90	0.25	0.03	0.11	0.07	0.01	0.01	0.01	0.13	0.02	0.03	0.43	— 0.01
		第2週	53.43	10.54	1.58	0.53	0.28	2.03	5.78	0.57	0.04	0.37	0.25	0.02	0.03	0.01	0.66	0.02	0.03	0.66	0.01 0.03

■病原体検出状況(ARIサーベイランス)

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	インフルエンザウイルス (A型 H1pdm09)	インフルエンザウイルス (A型 H3)	インフルエンザウイルス (B型ビクトリア系統)	B型インフルエンザウイルス (山形系統)	(新型コロナウイルス) (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニユーモウイルス	パラインフルエンザウイルス1型	パラインフルエンザウイルス2型	パラインフルエンザウイルス3型	パラインフルエンザウイルス4型	エンテロウイルス	ライノウイルス	アデノウイルス
第50週	18	18	9				5				1	1			6	1	
第51週	15	8		4	1						1				3		
第52週	18	11		6							2				4	2	
第1週	0	0															
第2週	16	9		3	2		1					1			2	1	

* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む (検査:広島市衛生研究所)

詳しくはホームページで [広島市 病原体](#)  検索

★麻しん(はしか)患者の発生に伴う注意喚起

広島市内で麻しん患者の発生が報告されています。麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる感染症で、感染力は極めて強く、空気感染・飛沫感染・接触感染によって感染します。感染すると、約10~12日後に、発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。発熱が2~3日間続いた後、39度以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、先進国であっても1,000人に1人が亡くなると言われています。

- 最も有効な予防法はワクチン接種です。こどもの定期予防接種は早めに受けましょう。また、医療・教育関係者や海外渡航を計画している方も、麻しんの罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合は、予防接種を検討しましょう。
- 麻しんが疑われる症状が見られた場合は、医療機関に電話連絡の上、公共交通機関の利用は可能な限り避けて受診しましょう。

詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

麻しん(はしか)患者の発生に伴う注意喚起(広島市)

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/shisei/kouhou/1004010/1045546/1045551/1047320.html>



【参考】

麻しん(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou_kekkaku-kansenshou/measles/index.html



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/eisei/1003071/index.html>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp